

青春とは 人生の或る期間を言うのではなく、 心の様相を言うのだ。

サミュエル・ウルマン「青春」の詩(岡田義夫訳)より

——海外技術ボランティアでどんなことをしていたのですか？

専門は応用生物発酵関係、食品加工を経験してきましたので酵素・醸造などの研究・教育の支援です。

今年4月まで行っていたチュニジアでは、メタン細菌を使って燃料ガスをつくったり、水素を併用した燃料の開発を研究テーマとして大学生たちの教育に携わりました。このほかに、チュニジアはヨーロッパの影響も色濃く、乳製品、特にチーズの種類も豊富で皆さん興味を持っているんですよ。それでチーズの香りの研究もししていました。

——研究の成果は？

研究の成果というのは何でもそうです。



ほんかわえいすけ

● **本川英佑**さん(妻カツ子さんと)
(弁天町・70歳・技術士)

海外技術ボランティア派遣略歴

1996年 中国へ10日間(JODC)
1997年 マレーシアへ45日間(JODC)
1998年 マレーシアへ6か月間(JODC)
1999年～2001年 タイへ2年間(JICA)
2003年～2005年 チュニジアへ2年間(JICA)

ですが、すぐにでるといえるものではないですね。最初はあちらの研究がどんなことをしているのかを理解するのに3か月くらいかかりました。そして今現在も学生たちとインターネットを使って連絡を取り合い、アドバイスをしています。

——海外での生活はいかがでしたか？

買物に行くにも、乗り物に乗るにしても、まず言葉が分からなくては大変ですね。事前に語学研修会があったので多少は分かるけれども、やはり多くは自ら学ぶ姿勢で、現地で覚えていくことが重要ですね。

技術協力で援助できたこともあったけど、与えてもらったものも同じくら

いあります。皆さんとてもフレンドリーで苦労の中にも楽しさがありました。

——今後の活動については？

今後は地元、安城のなかで国際交流に努めたいですね。経験を生かして少しでもお役に立てることがあればと思っています。

このまま、ただ年を重ね、理想や情熱を失って老いたくはありませんね。まだまだ青春は続けたいですよ。サミュエル・ウルマン「青春」の詩にあるみたいにね。年は七十であろうと十六であろうと。

筆者のつぶやき ならぬ喜のつぶやき？

’97のマレーシアから同伴して各国へ行かれたカツ子さんにもお話を伺いましたので、その中から…。「やはり言葉の壁、異文化コミュニケーションというのは大変でした。でも、外国の人たちと友達になれて良かったです。海外在住の時にはホームパーティーを開いて日本料理を食べてもらったり、逆に現地の郷土料理の作り方を教わったりと楽しかったです」とのこと。英佑さんからの「来ないか？」との誘いにひるまず同行して一緒に苦楽を味わってきたカツ子さん。いつまでも二人仲むつまじくお元気でいてください。